

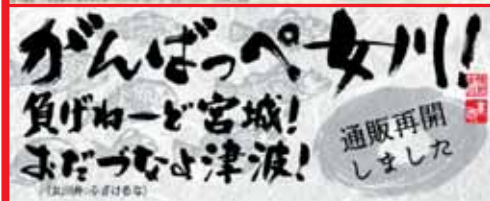
女川復興の願いを込めて 榊高政 新工場完成

宮城女川
がれきの山何もねえ



業界初のオール電化工場、生産能力は4倍に！

2011.3.13 朝日新聞より



2011.1.25



2011.3.17



2011.6.27



3.11大震災から約半年、壊滅的な被災地「女川」に「復興の柱」となるべく榊高政さんの「万石新工場」が9月1日、本社工場敷地内に完成しました。新工場は「揚げかま3ライン」「笹かま2ライン」の5つの生産ラインから成る業界初のオール電化工場で、その他工場内設備も環境に配慮された内容となっています。建設は震災前より進められていたものですが、基礎工事を重視した構造であったため、激震にも耐えることができ、厳しい環境の中で予定より3ヶ月遅れでの竣工となりました。このたびの大震災では、高政さんの従業員の方たちの決断で、救援物資が届かない町内の避難所などへ贈答用蒲鉾や水が届けられたことや、懸命に自力で生産設備の復旧を行い、わずか10日足らずで揚げかまラインをなんとか稼働させて温かい揚げかまを避難所などへ届けられたことが「命をつなぐかまぼこ」として全国報道され、私たちも心を深く打たされました。



＜新工場に併設した直売店「万石の里」＞



株式会社 高政 代表取締役社長 高橋 正典氏のお話し

このたび、新工場竣工を迎えたわけですが女川の現状を考えると大変複雑な思いです。私たちの役目は女川全体がいち早く復旧・復興するように貢献することだと思っていますので、地域と一緒に復興していくためにも新工場稼働後は旧工場の冷蔵設備や旧工場スペースをこれから女川を背負って立つ若手水産業の方達に無償で提供し電気、水道代も当社で負担して支援して行くつもりです。また、新工場建設に伴い、地域への貢献になれば震災後から新たに50人を雇用しました。女川は小さい町ですので復興の形も早く見ることが出来ると思いますし「復興のモデル」として取り組んでいきたいと思っています。そして、町民が“女川を離れなくて良かった”と思える魅力のある町づくりが出来ればと考えています。そして、その一翼をこの「万石新工場」が担えればと思います。

郷土復興のためにも死力を尽くして参りますので、今後とも関係者皆様のご協力をお願い申し上げます。

【万石新工場の概要】
敷地面積)4860㎡
(延べ床面積)3592㎡
(建物構造)鉄骨2階建て
(生産設備)
揚げ蒲鉾3ライン
*1ライン500kg/H
笹蒲鉾2ライン
*1ライン150kg/H
《オール電化仕様設備》



7/20 最終立会い試運転(ヤナギヤ本社にて)

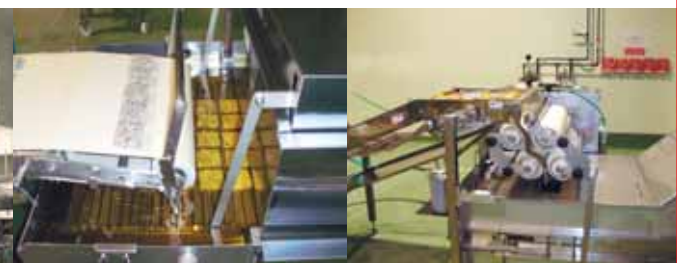


8/6 IHフライヤー3ライン、ボールカッターBCA250を据付



8/4新工場へ搬入開始
大潮の時には満ちると帰れなくなります

世界最大のIHフライヤー3ラインを導入！作業環境も大きく改善。



1時間500Kgの揚げかまラインには、脱油ローラー4本を組み合わせた「クアッドロール脱油機」が活躍しています！



<http://www.takamasa.net/>

3.11社社長宅、津波で会長がお亡くなりになった。▼天井が落ち、機械がずれたものの生産設備はなんとか無事だった。▼高橋社長はベンチで寝泊り。▼“命をつなぐかまぼこ”に続き、3月20日からは東北電力の協力を得て一部生産ラインを復旧して4月上旬までに12万枚の揚げかまが届けられた。

